

災害現地調査報告

平成24年11月13日に熊本県上益城郡益城町で発生した突風について

1	概要-----	1
2	突風に関する調査結果-----	1
3	現地調査結果-----	2
4	気象状況-----	4
5	気象台が益城町に発表した注意報---	6
	参考資料-----	7

注) 本資料は、速報として取り急ぎまとめたものですので、後日、内容を訂正、追加することがあります。

平成24年11月27日

熊本地方気象台

1 概要

平成 24 年 11 月 13 日 12 時 20 分頃、熊本県上益城郡益城町島田^{かみましきぐんましきまちしまだ}で突風が発生し、住家屋根の損壊、住家ガラス破損などの被害が発生した。

熊本地方気象台は 13 日に突風現象の調査のため、気象庁機動調査班（JMA-MOT）を派遣し現地調査を行った。

現地調査の結果は以下のとおりである。

2 突風に関する調査結果

(1) 突風をもたらした現象の種類

この突風をもたらした現象は、特定できなかった。

(根拠)

- ① 被害や痕跡には、竜巻やダウンバースト等に特徴的な帯状や面的等の分布は見られなかった。
- ② 聞き取り調査からも、目撃情報や現象の特定に有用な情報を得られなかった。

(2) 強さ（藤田スケール）

この突風の強さは藤田スケールで F0 と推定した。

(根拠)

- ① 複数の住家で屋根瓦のめくれがあった。
- ② 樹木の枝折れがあった。

(3) 被害範囲

現地調査の結果、被害範囲は長さ約 150m、幅約 100mであった。

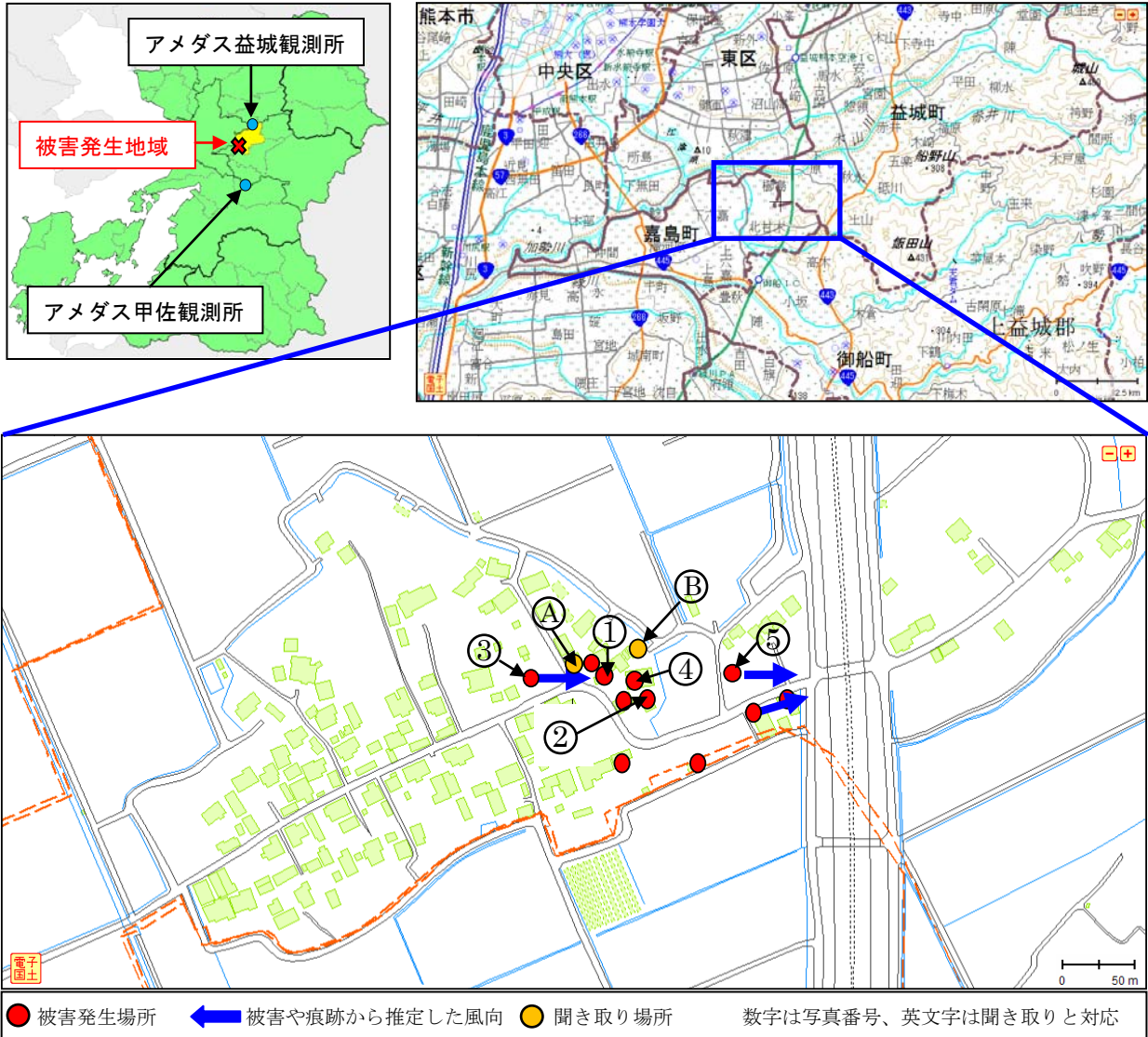
3 現地調査結果

実施官署：熊本地方気象台

実施場所：熊本県上益城郡益城町島田

実施日時：平成24年11月13日 14時40分～18時00分

(1) 被害分布図（益城町島田）



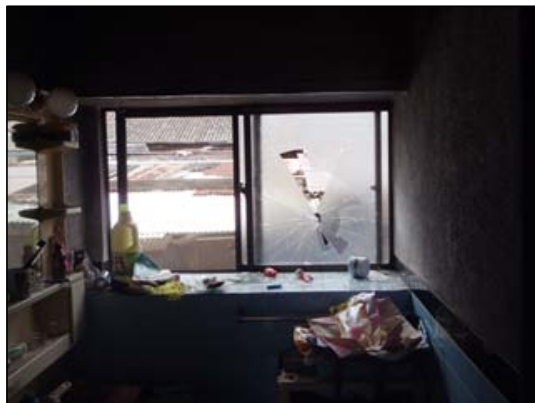
(2) 被害状況（益城町役場調べ 11月14日現在）

- ・負傷者：1名
- ・住家一部破損：4棟
屋根瓦のズレ、ガラスの破損等
- ・非住家の被害：納屋の壁一部破損、小屋のスレート破損、車庫ビニール飛び等

(3) 被害状況写真



①北側の屋根の瓦がめくれてズレた住家



①樹木の枝が飛んできて割れた窓(益城町提供)



②モルタル壁が剥離した倉庫



③折れて飛んだ樹木の枝



④南側の屋根の瓦がめくれてズレた住家



⑤同じ方向に倒れた野菜

※写真の数字は被害分布図上の番号と対応

(4) 聞き取り状況 (聞き取りは被害分布図上の英文字に対応)

A

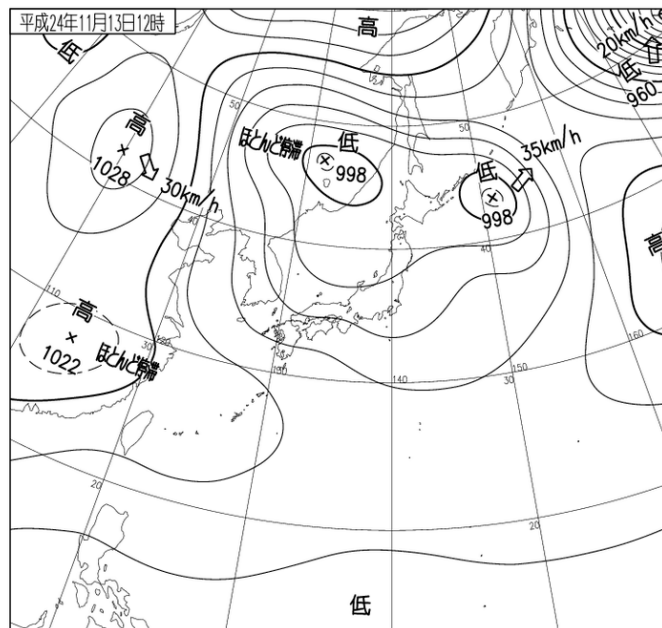
- ・小枝がバタバタと家に当たる音が2分から3分ぐらい続いた。
- ・小枝が当たる音を聞いたのはNHK 昼のニュースが終わった時で12時20分だった。

B

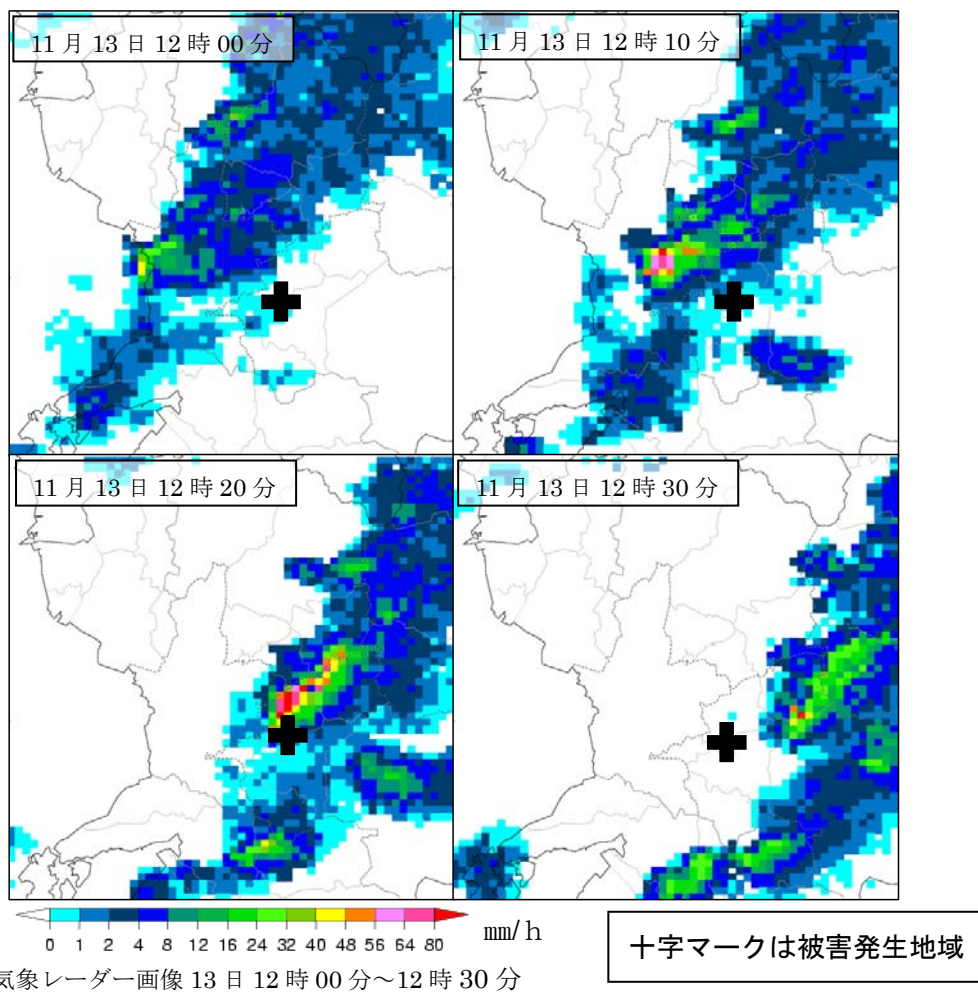
- ・瞬間的にゴーという音を聞いた。

4 気象状況

九州付近は強い寒気を伴った気圧の谷が通過中で、大気の状態が非常に不安定となり、発達した積乱雲が発生し13日昼前から昼過ぎにかけて熊本県を通過した。

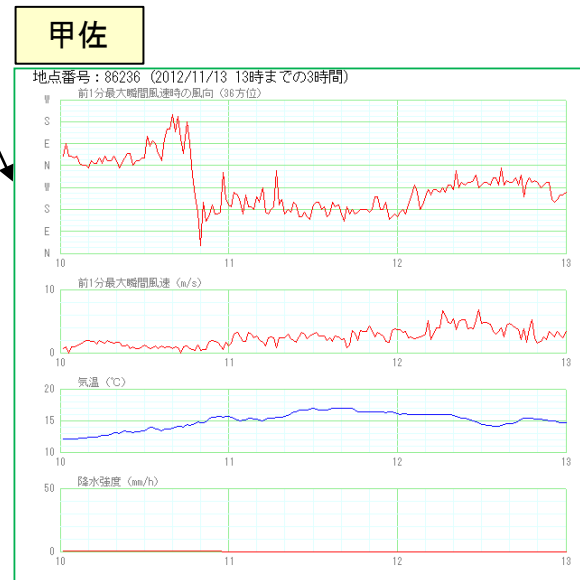
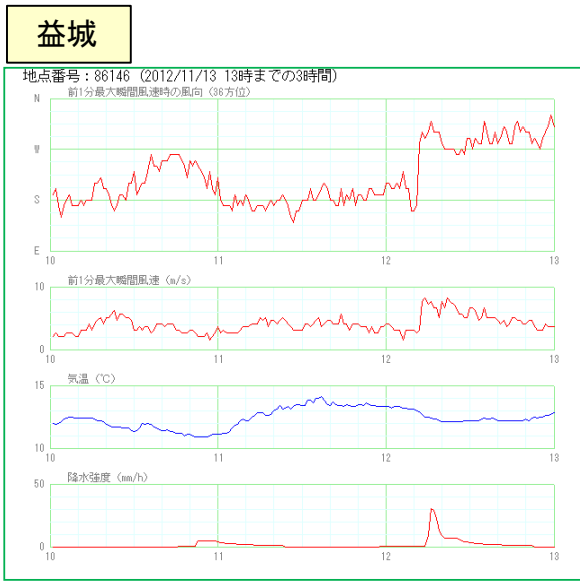
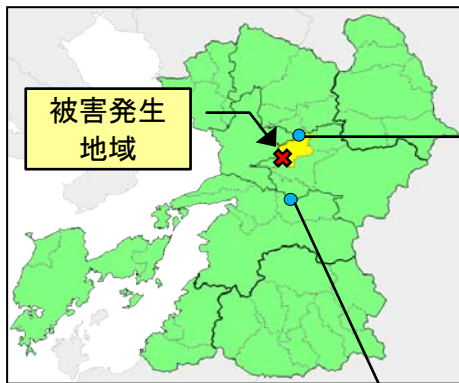


平成 24 年 11 月 13 日 12 時の地上天気図



気象レーダー画像 13日 12時00分～12時30分

被害発生地域付近の観測所（アメダス）観測値



5 気象台が益城町に発表した注意報

発表時刻	注意報	付加事項
11月12日18時47分	強風	
11月12日22時35分	強風	
11月13日05時08分	強風	
11月13日08時14分	雷、強風	突風
11月13日23時40分	強風	
11月14日02時29分	解除	

謝辞

この資料を作成するにあたり、ご協力頂きました益城町役場及び御船警察署等関係機関、地域住民の方々に、御礼申し上げます。

本資料の問い合わせ先
熊本地方気象台防災業務課
TEL : 096-324-3283

参考資料

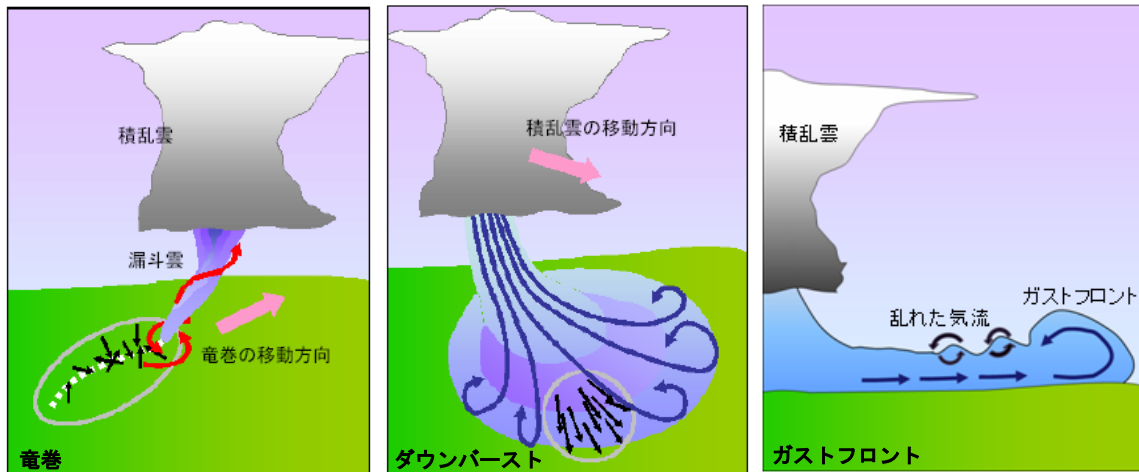
突風の種類

現象	特徴
竜巻	積雲や積乱雲に伴って発生する鉛直軸を持つ激しい渦巻きで、漏斗状または柱状の雲を伴うことがある。地上では、収束性で回転性の突風や気圧降下が観測され、被害域は帯状・線状となることが多い。
ダウンバースト	積雲や積乱雲から生じる強い下降気流で、地面に衝突し周囲に吹き出す突風である。地上では、発散性の突風やしばしば強雨・雹を伴い露点温度の下降を伴うことがある。被害域は円または楕円状となることが多い。周囲への吹き出しが4km未満のものをマイクロバースト、4km以上のものをマクロバーストとも呼ぶ。
ガストフロント	積雲や積乱雲から吹き出した冷気と周囲の空気との境界で、しばしば突風を伴う。降水域から前線状に広がることが多く、数10kmあるいはそれ以上離れた地点まで進行する場合がある。地上では、突風と風向の急変、気温の急下降と気圧の急上昇が観測される。
塵旋風	晴れた日の昼間に地上付近で発生する鉛直軸を持つ強い渦巻きで、突風により巻き上げられた砂塵を伴う。竜巻と違い積雲や積乱雲に伴わず、地上付近の熱せられた空気の上昇によって発生する。
漏斗雲	竜巻と同様の現象だが、渦は地上または海上に達しておらず、地表付近で突風は生じない。
その他の突風	自然風は絶えず強くなったり弱くなったり変化しており、その中で一時的に強く吹く風をいう。また、これ以外にガストフロントの中で発生する旋風などもある。

藤田スケール(Fスケール)

竜巻やダウンバーストなどの風速を、構造物などの被害調査から簡便に推定するために、シカゴ大学の藤田哲也により1971年に考案された風速のスケール(日本気象学会編、1992)です。

F0	17~32m/s (約15秒間の平均)	煙突やテレビのアンテナが壊れる。小枝が折れ、また根の浅い木が傾くことがある。非住家が壊れるかもしれない。
F1	33~49 m/s (約10秒間の平均)	屋根瓦が飛び、ガラス窓は割れる。またビニールハウスの被害甚大。根の弱い木は倒れ、強い木の幹が折れたりする。走っている自動車が横風を受けると道から吹き落とされる。
F2	50~69 m/s (約7秒間の平均)	住家の屋根がはぎとられ、弱い非住家は倒壊する。大木が倒れたり、またねじ切られる。自動車が道から吹き飛ばされ、また汽車が脱線することがある。
F3	70~92 m/s (約5秒間の平均)	壁が押し倒され住家が倒壊する。非住家はバラバラになって飛散し、鉄骨づくりでもつぶれる。汽車は転覆し、自動車が持ち上げられて飛ばされる。森林の大木でも、大半は折れるか倒れるかし、また引き抜かれることもある。
F4	93~116 m/s (約4秒間の平均)	住家がバラバラになってあたりに飛散し、弱い非住家は跡形なく吹き飛ばされてしまう。鉄骨づくりでもペシャンコ。列車が吹き飛ばされ、自動車は何十メートルも空中飛行する。1t以上もある物体が降ってきて、危険この上ない。
F5	117~142 m/s (約3秒間の平均)	住家は跡形もなく吹き飛ばされるし、立木の皮がはぎとられてしまったりする。自動車、列車などが持ち上げられて飛行し、とんでもないところまで飛ばされる。数トンもある物体がどこからともなく降ってくる。



↑ 竜巻の模式図 (左)

赤矢印は空気の流れ、黒矢印は樹木等の倒壊方向、白点線は竜巻の経路を表しています。竜巻の発生時にはしばしば積乱雲から漏斗状の雲がのびています。竜巻は周囲の空気を吸い上げながら移動しますので、倒壊物等は竜巻の経路に集まる形で残ります。

↑ ダウンバーストの模式図 (中)

青矢印はダウンバーストの空気の流れ、黒矢印は樹木等の倒壊方向です。積乱雲が移動している場合には、このように移動方向の吹き出しのみが強くなる場合がほとんどです。吹き出しの強さに対応して倒壊物の方向も一方向や扇状になることが少なくありません。

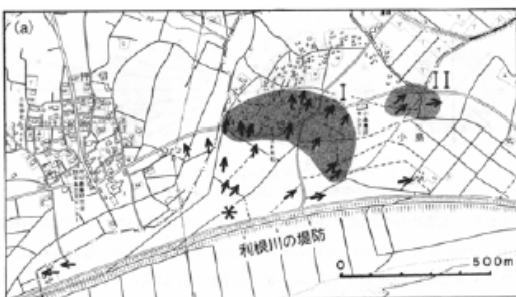
↑ ガストフロントの模式図 (右)

薄青の領域は周囲より冷たくて重い空気を、また、青矢印は冷気外出流を表しています。黒矢印は乱れた気流を表しています。



← 実際の竜巻の移動経路と風向分布 (新野ほか、1991)

平成 2 (1990) 年 12 月 11 日千葉県茂原市で日本では戦後最大級ともいわれる竜巻が発生しました。この図は、地面近くの構造物や畑の作物の倒れ方の調査から推定した竜巻の移動経路 (点線) と風向分布 (矢印) です。このように、現地調査を行うことで竜巻の移動経路や風向を知ることができます。また被害の程度から竜巻の強さを知ることができます。



← 実際のダウンバーストの被害 (大野、2001)

平成 2 (1990) 年 7 月 19 日午後、埼玉県妻沼町で発生したダウンバーストの被害の調査結果です。矢印はとうもろこしや樹木が倒れたり、屋根が飛んだ方向を示しています。*印のところから放射状に被害が広がっています。影域は被害が甚大な領域で、大木が折れたり家屋が倒壊したりしました。